

(様式1)

福岡県福祉サービス第三者評価の結果

【第三者評価機関】

名 称	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町 5 番 5 号		
T E L	095-841-8008	F A X	095-841-8018
評価調査者 登録番号	19-a0058、19-b00146、19-a0059、19-b00147、19-b00156		

【福祉サービス施設・事業所基本情報】

◆経営法人・設置主体

法人名称	ふりがな しゃかいふくしほうじん せいふうかい		
	社会福祉法人 清風会		
法人の 代表者名	ふりがな てしま つねつぐ	設立年月日	昭和 50年 8月 2日
	手嶋 常次		

◆施設・事業所

施設名称	ふりがな ひのさとひがしほいくえん	施設 種別	保育所
	日の里東保育園		
施設所在地	〒820-0076 福岡県宗像市日の里東5丁目3-1		
施設長名	ふりがな なかしま ちえ	開設年月日	昭和 51年 4月 1日
	中嶋 智恵		
T E L	0940-36-5803	F A X	0940-36-5873
Eメール アドレス	higashihoikuen@yacht.ocn.ne.jp		
ホームページ アドレス	https://hinosatohigashi.seifu-kai.jp		
定員 (利用人数)	160名 (現員157名)		
職員数	常勤職員： 28名	非常勤職員： 9名	
専門職員	(専門職の名称) 名	園長 1名	主任 1名
	保育士 27名	栄養士・調理員 6名	看護師 1名
	清掃員 1名	事務員 1名	

施設・設備 の概要	乳児・ほふく室 4	調理室 1	保育室 4
	遊戯室 1	調乳室 2	沐浴室 1
	乳幼児用トイレ 5	屋外遊戯場 1	

◆施設・事業所の理念・基本方針

理 念	<p>法人理念 「一人ひとりの個性を尊重した人間づくり」 「子ども達の限りない可能性を育む」</p> <p>理念：『子ども達の豊かな未来を創る』 豊かな自然環境のなかで緑あふれる自然に親しみ、たくさんの経験を通して豊かな感性を磨き、一人ひとりの個性と可能性を切り拓く</p>
保 育 目 標	<p>知育 自ら考えて行動する力をつけ、好奇心・向上心を養います。</p> <p>徳育 人としての心情や道徳的な意義を養います。</p> <p>体育 全身を使って遊ぶ体験を積み重ね、仲間意識や社会性を育みます。</p> <p>3つの柱を保育にいかし、子ども達の限りない可能性と考える力を大切にしています</p>
基 本 方 針	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一人ひとりの個性を尊重した人間づくりをおこないます。 2. 子ども達の限りない、可能性を育みます。 3. 生活や遊びを通じて、子どもたちの「力」を伸ばします。 4. 静と動のバランスを大切にします。 5. 衛生面・安全面を考慮し、怪我や事故に注意します。 6. 安定した生活リズムをつくります。

◆施設・事業所の特徴的な取組

<p>「豊かな自然と、たくさんの体験がはつらつとした、子どもたちを育む」</p> <p>ゆたかな緑、恵まれた環境に生まれた新園舎で学ぶ日の里保育園。3、4、5歳児はそろって緑あふれる公園までお散歩。大きな自然のなかだから、おのずと全身をつかって全力で遊ぶことを体得します。年少の子を思いやる気持ちも自然に芽生えます。</p> <p>近隣の文化施設ではプラネタリウム体験や芝生での運動遊び。本物にふれる喜びと感動が、ひとり一人の可能性を拓き「知育・徳育・体育」のバランスのとれた子どもたちを育みます。</p>

◆第三者評価の受審状況

評価実施期間	契 約 日	令和 6年 6月 27日
	訪 問 調 査 日	令和 6年 10月 24日、25日
	評価結果確定日	令和 7年 3月 5日
受審回数（前回の受審時期）	今回の受審：	1回目

【評価結果】

1 総 評

(1) 特に評価の高い点

■ 子どもの個性と可能性を育む保育

園の特長として、“横割り保育”で育ちに応じた力が身に付くよう援助し、3歳以上児クラスでは週1回“縦割り保育”で、異年齢の関わりや年下の子どもの世話をする経験を積んでいる。

3歳児は、子どもの食べ物のお話から、職員がハンバーガーの具材をフェルトで作って種類を増やし、そこから買う人、売る人などお店屋さんごっこに発展しており、子どもの興味関心から遊びを工夫していることがわかる。また、4歳児は、友だちと協力しながら、小さいレゴブロックで一つの物を完成させる姿もあり、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組める環境を作っている。

5歳児は、運動会ではチアダンスや応援団、生活発表会の合奏などさまざまな取組がある。集団の中で個性を活かし、友だちと協力して一つのことをやり遂げる喜びや達成感を得ており、友だちの様子や気持ちを汲み取り、優しい声掛けができるように成長している。

このように園の特長や職員の関わりを通じて、生活や遊びから子どもたちの“力”や個性を伸ばす活動を支援し、本人の可能性を育む保育を展開していることは、特筆すべき点である。

■ 園長の職場環境改善に向けた取組

園長は今年度就任にあたり、保健委員、体育委員、情報委員、環境・美化委員の4つの委員会を導入しており、業務を職員一人に任せず、チームで情報を共有し取り組むことで、職員の負担を軽減していくことを目指している。

また、有給休暇の取得状況など職員の就業状況の管理に努めている他、ノンコンタクトタイムとして職員休憩室を確保しパーテーションを設けるなど、現状より更に職員がくつろいで休憩をとれるにはどうしたらよいかを検討し取り組んでいる。

個人面談も定期的を実施し、気になる職員には声を掛け、メンタル的にフォローするとともに、福利厚生や産前産後休業、育児休業、介護休業などワーク・ライフ・バランスへの

配慮にも注力している。

園長は、改善できるところはないかと職員の声を重視し、ボトムアップ体制で職場環境の改善を進めていきたいと考えている。

園長の職場環境改善に向けた意欲とその取組は高く評価できる。

■ 保育内容の移行における職員の積極的な姿勢

園では今年度から主体的保育を取り入れるとともに、一斉保育から少人数制への移行を進めている。

0、1歳児クラスでは、トイレトレーニングに重点を置くのではなく、子ども一人ひとりの意思を尊重し、本人のタイミングを大切にしている。2歳児クラスも、昨年度までは3歳までにオムツを外しトイレで排泄することを習得するという考えであったが、今年度から無理をせず自然にトイレトレーニングを支援している。

職員は見守りながら子どもの自主性を尊重し、友だちの姿を見ることで自らやってみようという気持ちを引き出している。日々の活動の中でも、ゆったりとした時間の流れで子どもの欲求を受けとめたり、得意なことや興味があることに気づけたり、意思を尊重しやすくなるなど主体的な保育の利点を感じている。

3歳以上児クラスでは、主体的な保育への移行により、自主的・自発的な活動が増えており、自由に弾いていいキーボードを設置したり、保育室の各所にコーナーを設け、ブロックを配置しその種類を増やすなど、子どもが自由に動き、玩具を選べるように工夫している。

子どもたちがブロック遊びからお絵描きへと夢中になる様子があり、さまざまな遊びから本人の主体性、自主性を育んでいることが見てとれる。

保育内容の移行期において、子どもが主体的に活動できるよう支援する職員の積極的な姿勢と保育の展開は優れているといえる。

(2) 改善を求められる点

■ 職員育成の仕組みづくり

園長は今年度、理念・保育方針を基に期待したい職員像を策定し、職員の更衣室に掲示し周知を図っていることが確認できる。

ただし、毎年度職員が自己評価に取り組んでいるものの、評価に基づいた個別目標設定までには至っていない。目標管理においては、目標項目、目標水準、目標期限を明確にして中間面接を行う等、適切に進捗状況を確認していくことが必要となる。

現在実施している個人面談を活かし、職員一人ひとりが設定した目標について、目標達成と取組み状況を確認する体制を構築することで、職員育成に繋げていくことが望まれる。

■ 保護者が意見や意向を述べることのできるための更なる工夫

園では、保護者の意見や意向をコドモンへの書き込みの他、送迎時の会話から把握し、その内容を記録して職員間で共有し検討している。

ただし、意見箱の設置やアンケートは実施していない。また、コドモンでのやり取りは3歳未満児の保護者であるため、3歳以上児の保護者とは送迎時の対話に留まっている。園長はこのことを課題と捉え、意見箱の設置やアンケートの実施等も検討している段階である。

保護者が意見や意向を述べる機会を多く設けることで、保護者との信頼関係も更に深まると考えられる。今後の取組に期待したい。

2 第三者評価の結果に対する事業者のコメント

今回の第三者評価を受けたことで、職員で理念、保育目標、基本方針などを再確認し全職員に対して周知することが出来ました。今年度から保育内容が今までの一斉保育から子どもひとり一人の意思を尊重する主体的保育に移行を進めています。職員の子ども主体とする保育を目指すという考えもずいぶん共有できたと感じます。

今後の課題は職員の定期的な面談です。ひとり一人の保育目標を明確にして途中経過を聞き助言し、積極的に保育に関わることが出来る職員の育成、保育の質の向上を行っていきたいです。

保育士と保護者との信頼関係を更に深め、一緒に子ども中心の保育を行っていきたいと考えます。

3 共通評価基準及び個別評価基準の評価項目による第三者評価結果（別添）